

Dell Command | Configure

バージョン 4.5 ユーザーズ ガイド



メモ、注意、警告

 **メモ:** 製品を使いやすくするための重要な情報を説明しています。

 **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

 **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

章 1: Dell Command Configure 4.5 の概要	5
本リリースの新機能.....	5
その他の必要マニュアル.....	5
Dell EMC サポートサイトからの文書へのアクセス.....	6
章 2: Dell Command Configure 4.5 の Windows SMM Security Mitigations Table (WSMT) コンプライアンス	7
章 3: Dell Command Configure 4.5 のユーザー インターフェイスの使い方	8
Windows システムからの Dell Command Configure へのアクセス.....	8
Linux からの Dell Command Configure へのアクセス.....	8
のファイルとフォルダ Dell Command Configure	9
Dell Command Configure GUI へのアクセス.....	9
GUI を使用した BIOS パッケージの作成.....	9
一般設定.....	10
設定オプション.....	11
セットアップ、システム、およびハードディスクドライブパスワードの設定.....	12
既存のパスワードを使用したセットアップ、システム、およびハード ディスク ドライブ パスワードのクリア.....	12
パスワード保護画面.....	12
autoon オプションの設定.....	12
BIOSConnect プロファイルの設定.....	13
bootorder オプションの設定.....	16
起動順序画面.....	16
起動順序への新しいデバイスの追加.....	17
起動順序タイプ.....	17
primarybatteryconfig オプションの設定.....	17
advbatterychargecfg オプションの設定.....	18
peakshiftcfg オプションの設定.....	18
パスワード構成オプション.....	19
keyboardbacklightcolor オプションの設定.....	19
Advanced System Management.....	20
非重要しきい値の設定.....	20
BIOS オプション検証.....	21
マルチプラットフォームパッケージまたは保存されたパッケージの検証.....	21
ローカルシステムパッケージの検証.....	21
BIOS 設定のエクスポート.....	21
SCE (.EXE) ファイルのエクスポート.....	22
値設定なしでの設定のエクスポート.....	22
ターゲットシステム設定.....	23
INI または CCTK ファイルの適用.....	23
Linux へのシェルスクリプトの適用.....	23
SCE ファイルの適用.....	23
パッケージ履歴内のログ詳細.....	24
ログファイルの表示.....	24

ログ詳細の削除.....	24
のフィードバックの提供 Dell Command Configure	24
章 4: Dell Command Configure 4.5 のトラブルシューティング事例.....	25
Dell へのお問い合わせ.....	27

Dell Command | Configure 4.5 の概要

Dell Command | Configure は、Dell クライアント システム向けの BIOS 設定機能を提供するソフトウェア パッケージです。IT 管理者は、このツールを使用して、Dell Command | Configure ユーザー インターフェイス (UI) またはコマンド ライン インターフェイス (CLI) から BIOS 設定を行い、BIOS パッケージを作成することができます。

Dell Command | Configure 次の Windows および Linux オペレーティング システムに対応しています。

- Windows 7
- Windows 8
- Windows 8.1
- Windows 10
- Windows Preinstallation Environment (Windows PE)
- Red Hat Enterprise Linux 7
- Red Hat Enterprise Linux 8
- Ubuntu Desktop 16.04
- Ubuntu Desktop 18.04
- Ubuntu Desktop 20.04
- Ubuntu Core 16

CLI の使用方法に関する詳細については、[dell.com/support] で入手できる『Dell Command | Configure コマンド ライン インターフェイス リファレンス ガイド』を参照してください。

メモ: このソフトウェアは、Dell Client Configuration Toolkit バージョン 2.2.1 以降、ブランド名が Dell Command | Configure に変更されました。

トピック :

- [本リリースの新機能](#)
- [その他の必要マニュアル](#)

本リリースの新機能

- [BIOSConnect] プロファイルのサポート :
 - ConnectionProfile
 - CloudAppProfile
 - CsosProfile
 - FotaProfile
 - HttpBootProfile
- 次の BIOS 属性のサポート :
 - TCCActOffset
 - RgbPerKeyboardLang
 - RgbPerKeyKeyboardColor

その他の必要マニュアル

このガイドに加えて、[dell.com/support] から次のマニュアルにもアクセスできます。

- 『Dell Command | Configure インストール ガイド』には、サポートされているクライアント システムへの Dell Command | Configure のインストールに関する情報が記載されています。このガイドは、Dell Command | Configure のマニュアル ページから入手できます。
- 『Dell Command | Configure コマンド ライン インターフェイス リファレンス ガイド』では、サポートされている Dell クライアント システムで BIOS オプションを設定する方法について説明しています。

リリース ノートは、Dell Command | Configure のダウンロードの一部として [dell.com/support] から入手できます。リリース ノートには、Dell Command | Configure のインストールと操作に関する最新情報が記載されています。

Dell EMC サポートサイトからの文書へのアクセス

製品を選択して、必要なマニュアルにアクセスできます。

1. www.dell.com/manuals にアクセスします。
2. [すべての製品を参照] をクリックし、[ソフトウェア] をクリックして、[クライアント システム管理](#) をクリックします。
3. マニュアルを表示するには、必要な製品名とバージョンをクリックします。

Dell Command | Configure 4.5 の Windows SMM Security Mitigations Table (WSMT) コンプライアンス

Windows (SMM) Security Mitigations Table には、Windows オペレーティングシステム用に作成された ACPI テーブルについての情報が記載されています。ACPI テーブルは、Windows 仮想化ベースセキュリティ (VBS) 機能をサポートします。Dell Command | Configure は WSMT に対応しています。WSMT 対応 BIOS 搭載の Dell クライアント システムでプラットフォーム機能を設定する場合に使用します。

WSMT 準拠により変更になった動作は、次のとおりです。

- WMI/ACPI をサポートする互換性のあるバージョンの BIOS を搭載した Dell クライアント プラットフォームで、設定機能を使用できます。プラットフォームの一覧については、[対応プラットフォーム一覧](#)のサイトを参照してください。
- システムが互換性のない BIOS を搭載している場合、使用できる機能は以下に限定されます。
 - Dell Command | Configure ユーザー インターフェイスを使用して、すべての設定機能を表示できます。
 - Dell Command | Configure で、マルチプラットフォーム パッケージの SCE を生成できます。
 - Dell Command | Configure で、設定済みの値のレポートを生成できます。
 - Dell Command | Configure で、保存されているパッケージを開くことができます。

互換性のない BIOS が動作しているシステムでは、次の警告メッセージが表示される場合があります。

- インストール時：このシステムには、WMI-ACPI 互換の BIOS が搭載されていません。使用できる機能は限定的です。可能な場合は、互換性のあるバージョンに BIOS をアップデートしてください。詳細については、『Dell Command | Configure リリース ノート』を参照してください。
- CLI 使用時：このシステムには、WMI-ACPI 互換の BIOS が搭載されていません。可能な場合は、互換性のあるバージョンに BIOS をアップデートしてください。
- ユーザー インターフェイスでのローカル システム パッケージの場合：このシステムには、WMI-ACPI 互換の BIOS が搭載されていません。ローカル システムの SCE パッケージは、このシステムでは動作しません。可能な場合は、互換性のあるバージョンに BIOS をアップデートしてください。
- SCE パッケージの実行中：このシステムには、WMI ACPI 互換の BIOS が搭載されていません。可能な場合は、互換性のあるバージョンに BIOS をアップデートしてください。

Dell Command | Configure 4.5 のユーザー インターフェイスの使い方

Dell Command | Configure グラフィカルユーザーインターフェイス (Dell Command | Configure ユーザー インターフェイス) は、Dell Command | Configure でサポートされているすべての BIOS 設定を表示します。Dell Command | Configure ユーザー インターフェイスを使用して、次の操作を実行できます。

- クライアントシステムの BIOS 設定を作成できます。詳細については、「[GUI を使用した BIOS パッケージの作成](#)」を参照してください。
- ホストシステムの BIOS 設定との比較で、BIOS 設定を検証できます。詳細については、「[BIOS オプション検証](#)」を参照してください。
- カスタマイズされた BIOS 設定を、設定ファイル (INI または CCTK)、自己完結型の実行可能ファイル (SCE)、シェルスクリプト、またはレポートとしてエクスポートできます。詳細については、「[BIOS 設定のエクスポート](#)」を参照してください。

① メモ: Dell Command | Configure コマンドライン インターフェイス (CLI) を使用して設定を適用するには、必要なファイル (INI、CCTK、または SCE) を実行します。

① メモ: このシステムには WMI-ACPI 対応の BIOS がないため、使用できる機能は制限されます。可能な場合は、互換性のあるバージョンに BIOS をアップデートしてください。詳細については、『Dell Command | Configure リリース ノート』を参照してください。

トピック :

- [Windows システムからの Dell Command | Configure へのアクセス](#)
- [Linux からの Dell Command | Configure へのアクセス](#)
- [のファイルとフォルダ Dell Command | Configure](#)
- [Dell Command | Configure GUI へのアクセス](#)
- [GUI を使用した BIOS パッケージの作成](#)
- [Advanced System Management](#)
- [BIOS オプション検証](#)
- [BIOS 設定のエクスポート](#)
- [ターゲットシステム設定](#)
- [パッケージ履歴内のログ詳細](#)

Windows システムからの Dell Command | Configure へのアクセス

1. Windows アイコンをクリックします。
2. [Dell Command | Configure] を起動します。

Linux からの Dell Command | Configure へのアクセス

/opt/dell/dcc ディレクトリを参照します。

① メモ: Ubuntu Core を実行しているシステムでは、Dell Command | Configure は、`dcc.cctk` コマンドを使用して任意の場所からアクセスできます。

のファイルとフォルダ Dell Command | Configure

次の表は、Windows オペレーティングシステムを実行しているシステムでの Dell Command | Configure のファイルとフォルダを示しています。

表 1. のファイルとフォルダ Dell Command | Configure

ファイル/フォルダ	説明
Dell Command Configure コマンドプロンプト	Dell Command Configure コマンドプロンプトにアクセスできます。
Dell Command Configure ウィザード	Dell Command Configure GUI にアクセスできます。
Dell Command Configure WINPE	ブータブルイメージ作成のために、Windows PE スクリプトにアクセスする場合に使用します。詳細については、[dell.com/support] にある『Dell Command Configure インストールガイド』を参照してください。
オンラインのユーザーズガイド	[dell.com/support] にある Dell Command Configure のマニュアルにアクセスできます。

Dell Command | Configure GUI へのアクセス

メモ: Dell Command | Configure GUI がサポートされるのは、Windows オペレーティングシステムを実行しているシステムのみです。

GUI にアクセスするには、[スタート] > [すべてのプログラム] > [Dell] > [Dell Command | Configure Wizard] の順にクリックするか、デスクトップの Dell Command | Configure ウィザードをダブルクリックします。

GUI を使用した BIOS パッケージの作成

Dell Command | Configure ユーザー インターフェイスを使用すると、ターゲットクライアントシステムに適用する有効な設定が含まれた BIOS パッケージを作成することができます。

BIOS パッケージを作成するには、次の手順を実行します。

1. 設定ウィザードにアクセスします。

詳細については、「[Dell Command | Configure GUI へのアクセス](#)」を参照してください。

[マルチプラットフォーム パッケージの作成] 画面が、次の設定オプションと共に表示されます。

- [マルチプラットフォーム パッケージの作成] — クリックすると、該当するすべてのクライアントシステムでサポートされている BIOS 設定が表示されます。設定の構成、検証、およびエクスポートは、INI、CCTK、EXE、シェルスクリプト、または HTML ファイルで行います。
- [Dell 推奨パッケージを開く] — クリックすると、システムのセキュリティ機能とサポートされている BIOS オプションが表示されます。Dell 推奨値は、システムを保護するために設定されています。また、要件に従って値を変更するオプションもあります。設定の構成、検証、およびエクスポートは、INI、CCTK、EXE、シェルスクリプト、または HTML ファイルで行います。

メモ: 導入前に、組織のセキュリティ チームは Dell 推奨パッケージの BIOS 属性を確認する必要があります。Dell では、Dell 推奨パッケージの BIOS 属性の導入または変更に関連して発生する可能性があるセキュリティ脆弱性について責任を負いません。

メモ: Dell 推奨値以外の値を変更すると、ステータスは「注意」に変わります。

Dell 推奨パッケージに含まれている BIOS 属性の詳細なリストについては、『Dell Command | Configure バージョン 4.x コマンドラインインターフェイス リファレンス ガイド』を参照してください。

- [ローカルシステム パッケージの作成] — クリックすると、ホストシステムの BIOS 設定が表示されます。設定の構成、検証、およびエクスポートは、INI、CCTK、EXE、または HTML ファイルで行います。ファイルには、システムでサポートされている BIOS オプションとサポートされていない BIOS オプションが表示されます。
- [保存されたパッケージを開く] — クリックすると、保存した設定ファイルがインポートされます。設定の構成、検証、およびエクスポートは、INI、CCTK、EXE、シェルスクリプト、または HTML ファイルで行います。

i **メモ:** 保存したパッケージを開くには、[保存されたパッケージを開く] をクリックし、ファイルの場所を参照して [開く] をクリックします。

- 必要なオプションをクリックします。
設定に使用できる全オプションが表示されます。詳細については、「[設定オプション](#)」を参照してください。
- [編集] をクリック、またはオプションをダブルクリックします。
- [設定する値] ドロップダウンリストから必要なオプションの値を選択します。
選択すると、編集されたオプションの [設定を適用する] チェックボックスが表示されます。
- 編集したオプションをエクスポートするには、必要なエクスポートオプションを選択します。
詳細については、「[BIOS 設定のエクスポート](#)」を参照してください。

i **メモ:** オプションをエクスポートしない場合は、[設定を適用する] チェックボックスのチェックを外してください。

i **メモ:**

オプションで文字列の入力ができる場合は、そのオプションにはエスケープシーケンスを追加する必要はありません。

関連リンク :

- [設定オプション](#)
- [セットアップ、システム、およびハードディスクドライブパスワードの設定](#)
- [セットアップ、システム、およびハードディスクドライブパスワードのクリア](#)
- [autoon オプションの設定](#)
- [起動順序の設定](#)
- [プライマリバッテリー充電の設定](#)
- [高度なバッテリー充電の設定](#)
- [ピークシフトバッテリー充電の設定](#)
- [キーボードバックライトカラーオプションの設定](#)

一般設定

[一般] タブでは、Dell Command | Configure がアップデート エクスペリエンスに関する情報を収集できるように、ソース カタログの場所およびダウンロードの場所をアップデートしたり、インターネット プロキシ設定を構成/変更したりできます。

一般設定を行うには、次の手順を実行します。

- タイトルバーで [設定] をクリックします。
[設定] 画面が表示されます。
- 左ペインで [一般] をクリックします。
- [ダウンロード ファイルの場所] で [参照] をクリックして、デフォルトの場所を設定するか、デフォルトの場所を変更します。[]
i **メモ:** Dell Command | Configure は、アップデートをインストールした後、この場所からアップデート ファイルを自動的に削除します。
- インターネット プロキシを設定するには、次のオプションがあります。
 - 現在のインターネットプロキシ設定を使用するには、[現在のインターネットプロキシ設定を使用] を選択します。
 - プロキシサーバとポートを設定するには、[カスタムプロキシ設定] を選択します。プロキシ認証を有効にするには、[プロキシ認証を使用] を選択して、プロキシ サーバー、プロキシ ポート、ユーザー名、パスワードを入力します。**i** **メモ:** ユーザー名とパスワードの資格情報は暗号化されて保存されます。
- 左ペインで [同期] をクリックします。
- [確認] をクリックして、Dell Command | Configure のアップデートを確認します。
Dell Command | Configure に使用可能なアップデートがある場合は、[アップデートが利用可能です] という警告メッセージが表示されます。[続行しますか?] で、[はい] をクリックしてアップデートを続行します。
i **メモ:** アップデートを確認するには、インターネット接続が必須です。
- インターネット接続なしで Dell Command | Configure をアップデートするには、次の手順を実行します。
 - <http://downloads.dell.com/catalog/>から [DellCommandConfigureCatalog.cab](#) ファイルのローカル コピーをダウンロードします。
 - .cab ファイルを抽出し、syscfg.xml と resdictionary.xml を Dell Command | Configure で使用可能なファイルに置き換えます。インストールパスは C:\Program Files (x86)\Dell\Command Configure です。

c. Optionames_<language code>.xml ファイルを Dell Command | Configure で使用可能なファイルに置き換えます。インストールパスは、C:\Program Files (x86)\Dell\Command Configure\Localization.です。

設定オプション

次の表で説明されている設定オプションを使用すると、BIOS 設定をカスタマイズして設定パッケージを作成することができます。

表 2. 設定オプション

オプション	説明
表示 / 変更	<p>これをクリックして、選択された設定を表示または変更し、新しい設定をロードします。[表示 / 変更] をクリックして新しい設定をロードすると、設定画面が表示されます。希望する変更を行ったら、[保存] をクリックして変更を保存するか、または [キャンセル] をクリックして前の設定に戻ります。</p> <p>① メモ: 設定した BIOS オプションをエクスポートせずに新しい設定をロードしようとする、画面が表示されます。[変更の破棄] をクリックして設定された値を破棄するか、または [キャンセル] をクリックして同じ設定で続行します。</p>
編集	これをクリックして、ロードされた設定を編集します。
詳細ビュー	<p>これをクリックして、コマンドライン オプション、オプションに設定できる可能な値、オプションの現在の値、設定を適用するためのオプション、オプションの説明などの設定の詳細を表示します。</p> <p>① メモ: ホストシステムの設定をロードした場合は、オプションの現在の値を表示することができます。</p>
ベーシックビュー	<p>これをクリックして、オプションが属するカテゴリ、オプションの名前、オプションに設定できる可能な値、オプションの現在の値、設定を適用するためのオプション、オプションの説明などの設定の詳細を表示します。</p> <p>① メモ: ホストシステムの設定をロードした場合は、オプションの現在の値を表示することができます。</p>
検証	これをクリックして、ホストシステムの設定との比較で、ロードされた設定を検証します。詳細については、「 BIOS オプション検証 」を参照してください。
検索	表内のテキスト文字列を検索します。検索ボックスにテキストを入力すると、表内の最初に検出されたテキストが選択されます。
カテゴリ	<p>これをクリックして、ドロップダウンリストから必要なカテゴリを選択します。</p> <p>① メモ: このオプションを表示できるのは ベーシックビュー のみです。</p>
名前	<p>オプションの名前を表示します。</p> <p>① メモ: このオプションを表示できるのは ベーシックビュー のみです。</p>
設定する値	オプションの値を表示します。値を変更するには、行をダブルクリックするか、または [編集] をクリックします。
現在の値	<p>オプションの現在の値を表示します。</p> <p>① メモ: このオプションは、ホストシステムの設定をロードした場合に表示することができます。</p>
設定を適用する	このチェックボックスを選択して、オプションをエクスポートします。デフォルトでは、[設定する値] 列に値があるすべてのオプションが選択されます。
説明	オプションの簡単な説明が表示されます。
コマンドライン オプション	<p>オプションのコマンドライン表記を表示します。</p> <p>① メモ: このオプションを表示できるのは 詳細ビュー のみです。</p>
ステータス	<p>ロードされた設定のオプションのステータスを表示します。</p> <p>① メモ: [ステータス] 列が表示されるのは、検証時のみです。</p>

セットアップ、システム、およびハードディスクドライブパスワードの設定

BIOS パスワードとしても知られるセットアップパスワード (setuppwd)、システムパスワード (syspwd)、およびハードディスクドライブパスワード (hddpwd) は、設定または変更することができます。

セットアップ、システム、またはハードディスクドライブパスワードを編集するには、次の手順を実行します。

- [編集] モードで必要なオプションの [設定する値] テキストボックスをクリックします。
対応するパスワード画面が表示されます。
 - メモ:** パスワードをクリアテキストとして表示するには、[パスワードを表示する] を選択します。[パスワードを表示する] を選択した場合、[パスワードの確認] テキストボックスは表示されません。[パスワード] テキストボックスにパスワードを入力します。
 - メモ:** セットアップパスワード、およびシステムパスワードには少なくとも 4 文字が含まれている必要があります。
- [パスワードの確認] テキストボックスに同じパスワードを入力し、パスワードを確認します。
両方の入力内容が一致する場合は、緑色のチェックマークが [パスワードの確認] テキストボックスの横に表示されます。両方の入力内容が一致しない場合は、赤色の X マークが表示されます。
- [送信] をクリックします。
- 変更を適用するには、.ini または .exe フォーマットで設定をエクスポートします。[「BIOS 設定のエクスポート」](#)を参照してください。

既存のパスワードを使用したセットアップ、システム、およびハードディスクドライブパスワードのクリア

既存のパスワードを使用して、セットアップ、システム、およびハードディスクドライブパスワードをクリアできます。

メモ: 既存のパスワードがわからない場合は、パスワードをクリアできません。

パスワードをクリアするには、次の手順を行います。

- [編集] モードで、必要なオプションの [設定する値] テキストボックスをクリックします。
対応するパスワード画面が表示されます。
 - メモ:** パスワードをクリアテキストとして表示するには、[パスワードを表示する] を選択します。[パスワードを表示する] を選択した場合、[パスワードの確認] テキストボックスは表示されません。
- [パスワード] テキストボックスに空のスペースを入力します。
- [パスワードの確認] テキストボックスに空のスペースを入力してパスワードを確認します。
両方の入力内容が一致する場合は、緑色のチェックマークが [パスワードの確認] テキストボックスの横に表示されます。両方の入力内容が一致しない場合は、赤色の X マークが表示されます。
- [送信] をクリックします。
- 変更を適用するには、.ini または .exe フォーマットで設定をエクスポートします。[「BIOS 設定のエクスポート」](#)を参照してください。

パスワード保護画面

システムまたはセットアップパスワードが含まれるファイルやレポートをエクスポートする際には、パスワード保護画面が表示されます。パスワードを含む形でファイルをクリアテキストとしてエクスポートするには、[続行] をクリックします。パスワードを含まない形でファイルをエクスポートするには、[マスク] をクリックします。

autoon オプションの設定

[電源およびパフォーマンス管理] カテゴリから [autoon] オプションを使用して、自動でシステムをオンにする日を設定することができます。

日を設定するには、次の手順を実行します。

- 必要なオプションをクリックします。

- [マルチプラットフォームパッケージの作成]
- [ローカルシステムパッケージの作成]
- [Dell 推奨パッケージを開く]
- [保存されたパッケージを開く]

メモ: 保存したパッケージを開くには、[保存されたパッケージを開く] をクリックし、ファイルの場所を参照して [開く] をクリックします。

2. [編集] をクリック、またはオプションをダブルクリックします。
3. [autoon] オプション行で、[設定する値] 列の [表示 / 変更] をクリックします。autoon 画面が表示されます。
4. [autoon] 画面から、次のいずれかのオプションを選択します。
 - 無効 - 機能をオフにします。
 - 平日 - 平日のみ自動でターゲットシステムをオンにします。
 - 毎日 - 毎日自動でターゲットシステムをオンにします。
 - 選択した曜日 — 自動でターゲットシステムをオンにする曜日を選択します。
5. [OK] をクリックします。
6. 変更を適用するには、設定を ini または .exe 形式でエクスポートします。[\[BIOS 設定のエクスポート \]](#) を参照してください。

BIOSConnect プロファイルの設定

BIOSConnect プロファイルは、[BIOS Connect profile] カテゴリから [Connection]、[CloudApp]、[Fota]、[Csos]、[HttpBoot] のいずれかのプロファイル オプションを使用して設定することができます。次の BIOSConnect プロファイルの入力データ フィールドを編集または設定することができます。

- ConnectionProfile
- CloudAppProfile
- CsosProfile
- FotaProfile
- HttpBootProfile

BIOSConnect プロファイルを設定するには、次の手順に従います。

1. 必要なオプションをクリックします。
 - [マルチプラットフォームパッケージの作成]
 - [ローカルシステムパッケージの作成]
 - [Dell 推奨パッケージを開く]
 - [保存されたパッケージを開く]

メモ: 保存したパッケージを開くには、[保存されたパッケージを開く] をクリックし、ファイルの場所を参照して [開く] をクリックします。
2. [編集] をクリック、またはオプションをダブルクリックします。
3. [BIOSConnect プロファイル] オプションで、[設定する値] 列の [表示 / 変更] をクリックします。

プロファイルの画面に、データ フィールドの現在の値が表示されます。

 - [マルチプラットフォーム パッケージ] を作成するには、プロファイル画面でデータ フィールドの値を更新します。
 - [ローカル システム パッケージ] を作成し、[保存されたパッケージ] を開くには、プロファイルの画面でデータ フィールドの既存の値を更新します。

メモ: BIOS パスワードが Set の場合、BIOSConnect プロファイルに対する Get は保護されます。[ローカル システム パッケージ] をクリックした後、BIOS パスワード画面が表示されます。正しいパスワードを入力するまで、3 回試行できます。3 回の試行で正しいパスワードが入力されなかった場合は、データ フィールドに既存の値は列挙されません。正しいパスワードを入力すると、BIOSConnect プロファイルの既存データが表示されます。
4. [OK] をクリックして設定を保存するか、または [閉じる] をクリックして変更を破棄し、[BIOSConnect プロファイル] 画面を閉じます。
5. 変更を適用するには、設定を ini または .exe 形式でエクスポートします。[\[BIOS 設定のエクスポート \]](#) を参照してください。

メモ: [export config] または [export .exe] オプションを選択した後、機密の値をマスクするための警告メッセージが表示されます。BIOSConnect プロファイルの機密データ フィールドの値を非表示にするには、[マスク] を選択します。マスク

された値は、エクスポートされた.xml ファイルで [非表示] に設定されます。データ フィールドをプレーン テキストで保存するには、[続行] を選択します。

次の表は、Dell Command | Configure を使用して [Biosconnect プロファイル] を設定するために提供される、使用可能なデータ フィールドを示しています。

表 3. BIOSConnect プロファイル

プロファイル	データ フィールド	説明
[ConnectionProfile]	NA	この機能では、BIOSConnect 接続インターフェイスを表示および設定します。
	優先インターフェイス	インターネット接続用の優先接続インターフェイスを表示します。
	SSID 非表示	SSID を非表示にする場合は、このオプションを有効にする必要があります。
	SSID 名	SSID の名前を表示します。
	Pre-Shared キー	このデータ フィールドは、SSID を接続するための認証キーです。
	自動優先インターフェイス	あるオプション が優先インターフェイスとして選択されると、Wi-Fi または有線接続を選択できます。
[CloudAppProfile]	NA	この機能では、BIOSConnect を表示および設定して、リカバリー アプリケーションをダウンロードします。
	URL タイプ	URL のタイプを表示します。
	URL	ファイルをダウンロードするための URL を表示します。
	証明書の選択	https 経由で URL に接続するための証明書をインポートすることができます。
	応答の形式	応答を利用またはダウンロードできる形式を表示します。
	署名済み	このオプションを有効にすると、署名済みの応答情報が表示されます。
	応答証明書の選択	キーまたは証明書をインポートして、応答情報を検証することができます。
[FotaProfile]	NA	この機能では、BIOSConnect を表示および設定して、BIOS カタログをダウンロードします。
	URL タイプ	URL のタイプを表示します。
	URL	ファイルをダウンロードするための URL を表示します。
	証明書の選択	https 経由で URL に接続するための証明書をインポートすることができます。
	応答の形式	応答を利用またはダウンロードできる形式を表示します。
	署名済み	このオプションを有効にすると、署名済みの応答情報が表示されます。
	応答証明書の選択	キーまたは証明書をインポートして、応答情報を検証することができます。

表 3. BIOSConnect プロファイル (続き)

プロファイル	データフィールド	説明
[CsosProfile]	NA	この機能では、BIOSConnect を表示および設定して、システム リカバリー ファイルをダウンロードします。
	URL タイプ	URL のタイプを表示します。
	URL	ファイルをダウンロードするための URL を表示します。
	証明書の選択	https 経由で URL に接続するための証明書をインポートすることができます。
	応答の形式	応答を利用またはダウンロードできる形式を表示します。
	署名済み	このオプションを有効にすると、署名済みの応答情報が表示されます。
	応答証明書の選択	キーまたは証明書をインポートして、応答情報を検証することができます。
	OAuth 有効	このオプションを有効にすると、必要なファイルをダウンロードする際にサーバーが OAuth を必要とするようになります。
	OAuth URL タイプ	OAuth の URL タイプを表示します。
	OAuth URL	OAuth の URL を表示します。
	OAuth 証明書	証明書をインポートして、https を経由して OAuth に接続することができます。
	OAuth URL の形式	OAuth 応答の形式を表示します。
	署名済み	このオプションを有効にすると、署名済みの OAuth 応答情報を表示します。
	OAuth 応答証明書の選択	キーまたは証明書をインポートして、応答情報を検証することができます。
	クライアント ID	OAuth のクライアント ID を表示します。
	クライアント シークレット	OAuth のクライアント シークレットを表示します。
OAuth グラント	OAuth グラントのステータスを表示します。	
[HttpBootProfile]	NA	この機能では、BIOSConnect を表示および設定して、HttpsBoot を使用してオペレーティング システムをインストールします。
	URL タイプ	URL のタイプを表示します。
	URL	ファイルをダウンロードするための URL を表示します。
	証明書の選択	https 経由で URL に接続するための証明書をインポートすることができます。

メモ: [CloudApp], [Fota], [HttpBoot] プロファイルの各ページには、証明書検証の詳細について表示するフィールドがあります。検証に失敗した場合でも、選択した証明書を使用して続行できます。

bootorder オプションの設定

[起動管理] カテゴリの [bootorder] オプションでクライアントシステムの起動順序を設定できます。レガシーおよび UEFI (Unified Extensible Firmware Interface) の起動項目の起動順序の追加、削除、有効化、無効化、変更を行うことができます。

起動順序を設定するには、次の手順を実行します。

1. 必要なオプションをクリックします。

- [マルチプラットフォームパッケージの作成]
- [ローカルシステムパッケージの作成]
- [Dell 推奨パッケージを開く]
- [保存されたパッケージを開く]

①メモ: 保存したパッケージを開くには、[保存されたパッケージを開く] をクリックし、ファイルの場所を参照して [開く] をクリックします。

2. [編集] をクリック、またはオプションをダブルクリックします。

3. [bootorder] オプション行で、[設定する値] 列の [表示 / 変更] をクリックします。

起動順序の画面には、現在の起動順序タイプと起動順序オプションが表示されます。詳細は、[[起動順序の設定](#)] を参照してください。

- マルチプラットフォームパッケージを作成するためにデバイスを追加することができます。
- ローカルシステムパッケージを作成、および保存したパッケージを開くためにデバイスを追加することができ、既存の起動順序がある場合は、それを編集することができます。

①メモ: デバイスの起動順序を変更するには、[起動順序] 画面の下部にある矢印ボタンを使用します。

4. [OK] をクリックして設定を保存、または [閉じる] をクリックして変更を破棄し、[起動順序] 画面を閉じます。

5. 変更を適用するには、設定を ini または .exe 形式でエクスポートします。[[BIOS 設定のエクスポート](#)] を参照してください。

関連リンク :

- [起動順序への新しいデバイスの追加](#)
- [起動順序タイプ](#)

起動順序画面

次の表には、[Dell Command | Configure - 起動順序] 画面で使用できるオプションが記載されています。

表 4. 起動順序画面上のオプション

オプション	説明
アクティブなブートリスト	必要に応じて、UEFI またはレガシーの [アクティブなブート リスト] を設定したり、変更したりすることができます。アクティブなブート リストが [オン] になっていると、起動順序タイプに応じて UEFI またはレガシーで起動します。 ①メモ: システムで対応しているデバイスが UEFI のみの場合は、[ローカル システム パッケージ] で [アクティブなブート リスト] を変更することはできません。
デバイスタイプ	デバイスのタイプが表示されます。
デバイスインスタンス	システム上のデバイスを識別するための一意の番号が表示されます。
省略名	デバイス名の省略名が表示されます。システムに同じデバイス タイプのデバイスが多数ある場合、デバイスの省略名が <番号> の表記と共に表示されます。たとえば、システムに内蔵ハードドライブ、eSATA HDD、eSATA ドック HDD がある場合、省略名はそれぞれ hdd.1、hdd.2、hdd.3 と表示されます。
説明	デバイスの簡単な説明が表示されます。
ステータス	デバイスがオンかオフかを表示します。
削除	起動順序からデバイスを削除します。デバイスを削除するには [X] をクリックします。 ①メモ: このオプションは、起動順序画面が [編集] モードのときに表示することができます。

起動順序への新しいデバイスの追加

起動順序に新しいデバイスを追加するには、次の手順を実行します。

1. [起動順序] 画面で [デバイスの追加] をクリックします。
2. [デバイスタイプ] ドロップダウンリストからデバイスを選択します。
[省略名]、[説明]、[ステータス] の各フィールドには自動的に値が入力されます。デフォルトでは、デバイスの [ステータス] は [オン] になっています。
3. [デバイスインスタンス] ドロップダウンリストからデバイスのインスタンスを選択します。
4. [OK] をクリックします。

メモ: UEFI またはレガシーの [起動順序タイプ] で同じ [デバイスタイプ] と [デバイスインスタンス] を選択すると、[[入力リストから重複している項目を削除してください]] という次の警告メッセージが表示されます。

起動順序タイプ

起動順序タイプには、ロードされた設定のタイプが表示されます。起動順序には、レガシーと UEFI の 2 種類があります。ホストのシステムファイルがロードされると、現在アクティブな起動順序タイプが表示されます。保存されているファイルがロードされると、そのファイルに保存されている起動順序タイプが表示されます。

起動順序タイプの一般的なシナリオは次のとおりです。

- ファイルに起動順序タイプが指定されていず、システムに UEFI デバイスがある場合は、起動順序タイプは UEFI と表示されます。
- ファイルに起動順序タイプが指定されていず、システムにレガシーなデバイス (hdd 以外) がある場合は、起動順序タイプはレガシーと表示されます。
- 起動順序タイプが指定されていず、ロードした設定ファイルに指定されている項目が hdd のみの場合、起動順序タイプの選択が求められます。
- レガシーなシステムの起動順序タイプが指定されていず、またシステムに UEFI とレガシーの両方のデバイスが存在する場合、警告メッセージが表示され、デバイスの発生順に応じてレガシーデバイスまたは UEFI デバイスが削除されます。

primarybatterycfg オプションの設定

プライマリバッテリー充電モードは、[電源およびパフォーマンス管理] カテゴリから [primarybatterycfg] オプションを使用して設定することができます。

プライマリバッテリー充電オプションを設定するには、次の手順を実行します。

1. 必要なオプションをクリックします。
 - [マルチプラットフォームパッケージの作成]
 - [ローカルシステムパッケージの作成]
 - [Dell 推奨パッケージを開く]
 - [保存されたパッケージを開く]

メモ: 保存されたパッケージを開くには、[保存されたパッケージを開く] をクリックし、ファイルの場所を参照してから [開く] をクリックします。
2. [編集] をクリック、またはオプションをダブルクリックします。
3. [primarybatterycfg] オプション行で、[設定する値] 列の [表示 / 変更] をクリックします。
[プライマリバッテリー] 画面が表示されます。
4. [プライマリバッテリー] 画面でバッテリーを充電するためのモードを選択します。
 - [標準充電] — 長時間にわたってバッテリーを充電します。
 - [高速充電] — Dell の高速充電テクノロジーである高速充電アルゴリズムを使用してバッテリーを充電します。
 - [AC 使用] — コンセント接続時にバッテリーを充電します。
 - [自動充電] — バッテリーの使用状況の定期的な評価に基づいてバッテリーを充電し、最もバランスの良い容量を実現します。
 - [カスタム充電] — ユーザー設定に基づいてバッテリー充電を開始 / 停止します。

メモ: [カスタム充電] を選択した場合は、[充電開始 (50 ~ 95%)] および [充電停止 (55 ~ 100%)] の値を指定します。
5. [OK] をクリックします。

6. 変更を適用するには、.ini または .exe フォーマットで設定をエクスポートします。「[BIOS 設定のエクスポート](#)」を参照してください。

advbatterychargecfg オプションの設定

高度なバッテリー充電モードは、[電源およびパフォーマンス管理] カテゴリから [advbatterychargecfg] オプションを使用して設定することができます。高度なバッテリー充電モードは、標準充電アルゴリズムと他のメソッドを使用して、非作業時間にバッテリーの性能を最大限に高めます。作業時間中は、ExpressCharge を使用して、バッテリーをより早く充電します。バッテリーを充電する必要がある曜日と作業時間を設定することができます。高度なバッテリー充電モードを有効にするには、充電する日、開始時刻、および充電時間（最適な使用期間）を指定します。

高度なバッテリー充電オプションを設定するには、次の手順を実行します。

1. 必要なオプションをクリックします。
 - [マルチプラットフォームパッケージの作成]
 - [ローカルシステムパッケージの作成]
 - [Dell 推奨パッケージを開く]
 - [保存されたパッケージを開く]

メモ: 保存したパッケージを開くには、[保存されたパッケージを開く] をクリックし、ファイルの場所を参照して [開く] をクリックします。
2. [編集] をクリック、またはオプションをダブルクリックします。
3. [advbatterychargecfg] オプション行で、[設定する値] 列の [表示 / 変更] をクリックします。
[高度なバッテリー設定] 画面が表示されます。
4. 高度なバッテリー充電モードを有効にします。

メモ: 高度なバッテリー充電モードが [BIOS セットアップ] 画面で有効化されている場合、[高度なバッテリー充電モードを有効にする] はデフォルトで選択されています。
5. 曜日を選択します。

メモ: すべての日に同じ設定を適用するには、[他の日にこれらの設定を適用する] オプションを選択します。
6. [始業時間] ドロップダウンリストで、高度な充電を開始する時刻を選択します。
7. [業務時間] ドロップダウンリストで、高度な充電を行う期間を選択します。
8. [OK] をクリックします。
9. 変更を適用するには、.ini または .exe フォーマットで設定をエクスポートします。「[BIOS 設定のエクスポート](#)」を参照してください。

peakshiftcfg オプションの設定

ピークシフトバッテリー充電モードは、[電源およびパフォーマンス管理] カテゴリから [peakshiftcfg] オプションを使用して設定することができます。ピークシフト構成を使用すると、1日のピーク電力使用期間中の AC 電力消費を最小限に抑えることができます。ピークシフト期間の開始時刻と終了時刻を設定することができます。この期間中、バッテリー残量が設定されたバッテリーのしきい値を超えると、システムはバッテリーで稼働します。ピークシフト期間の後、システムはバッテリーを充電せずに AC 電源で稼働します。システムは、AC 電源を使用して、指定された充電開始時刻にバッテリーを再充電することによって正常に機能します。

ピークシフトバッテリー充電オプションを設定するには、次の手順を実行します。

1. 必要なオプションをクリックします。
 - [マルチプラットフォームパッケージの作成]
 - [ローカルシステムパッケージの作成]
 - [Dell 推奨パッケージを開く]
 - [保存されたパッケージを開く]

メモ: 保存したパッケージを開くには、[保存されたパッケージを開く] をクリックし、ファイルの場所を参照して [開く] をクリックします。
2. [編集] をクリック、またはオプションをダブルクリックします。
3. [peakshiftcfg] オプション行で、[設定する値] 列の [表示 / 変更] をクリックします。

[ピークシフト] 画面が表示されます。

4. ピークシフト設定オプションを有効にします。

5. 曜日を選択します。

メモ: すべての日に同じ設定を適用するには、[他の日にこれらの設定を適用する] オプションを選択します。

6. [バッテリーのみで稼働] ドロップダウンリストから、システムをバッテリーのみで稼働させる開始時刻を選択します。

7. [AC 電源のみで稼働] ドロップダウンリストから、システムを AC 電源のみで稼働させる開始時刻を選択します。

8. [通常の電源 / 充電の再開] ドロップダウンリストから、システムが AC 電源の使用とバッテリーの再充電を開始する必要がある時刻を選択します。

メモ: システムは次の条件を満たすためにドロップダウンリストの値を調整します。

- [バッテリーのみで駆動] 時間は、[AC 上のみで駆動] に指定された時間以下にする必要があります。
- [バッテリーのみで駆動] 時間と [AC 電源のみで駆動] 時間は、[通常の電源 / 充電の再開] 時間未満、またはそれより長くする必要があります。

9. [OK] をクリックします。

メモ: すべての曜日に同じ設定を適用するには、[他の日にこれらの設定を適用する] チェックボックスを選択します。

10. 変更を適用するには、.ini または .exe フォーマットで設定をエクスポートします。[「BIOS 設定のエクスポート」](#)を参照してください。

パスワード構成オプション

この機能では、SysPwd、SetupPwd、OwnerPwd、および HddPwd の設定に適用可能なパスワード ルールを表示して設定します。

パスワード構成オプションを設定するには、次の手順を実行します。

1. 必要なオプションをクリックします。

- [マルチプラットフォームパッケージの作成]
- [ローカルシステムパッケージの作成]
- [Dell 推奨パッケージを開く]
- [保存されたパッケージを開く]

メモ: 保存したパッケージを開くには、[保存されたパッケージを開く] をクリックし、ファイルの場所を参照して [開く] をクリックします。

2. [編集] をクリック、またはオプションをダブルクリックします。

3. [PasswordConfiguration] オプション行で、[設定する値] 列の [表示/変更] をクリックします。
[PasswordConfiguration] 画面が表示されます。

4. パスワード構成の設定オプションを有効にします。

5. [小文字]、[大文字]、[数字]、[特殊文字] を選択し、[パスワードに必須の最小文字数を設定] します。

メモ: PwdMinLen >=8、PwdLowerCaseRqd=Enabled、および PwdUpperCaseRqd=Enabled の条件を満たす場合に、StrongPassword が Enabled になります。この条件を満たさない場合、StrongPassword は Disabled になります。また、その逆も該当します。

6. 変更を適用するには、.ini または .exe フォーマットで設定をエクスポートします。[「BIOS 設定のエクスポート」](#)を参照してください。

keyboardbacklightcolor オプションの設定

[システム設定] カテゴリの [keyboardbacklightcolor] オプションを使用して、Dell Latitude Rugged Extreme システムのキーボードバックライトの色を設定できます。サポートされている色の有効化、アクティブ カラーの設定、customcolor1 と customcolor2 の設定を行うことができます。

キーボードバックライトカラー変更するには、次の手順を実行します。

1. 必要なオプションをクリックします。

- [マルチプラットフォームパッケージの作成]

- [ローカルシステムパッケージの作成]
- [Dell 推奨パッケージを開く]
- [保存されたパッケージを開く]

メモ: 保存されたパッケージを開くには、[保存されたパッケージを開く] をクリックし、ファイルの場所を参照してから [開く] をクリックします。

2. [編集] をクリック、またはオプションをダブルクリックします。
3. [keyboardbacklightcolor] オプション行で、[設定する値] 列の [表示 / 変更] をクリックします。
[キーボードバックライトカラー] 画面が表示されます。
4. [有効化] リストからキーボードバックライト用に有効化する色を選択します。

メモ:

- 一度に複数の色を選択して有効にすることができます。
- [なし] を選択した場合、色は有効化されません。[なし] を選択した場合は、他の色を選択することはできません。

5. [アクティブ] リストからキーボードバックライトのアクティブカラーとして設定する色を選択します。

メモ: キーボードバックライトのアクティブカラー用に選択できる色は、一度に1色のみです。

6. [CustomColor1] または [CustomColor2] を選択した場合は、赤、緑、および青 (RGB) の値を設定します。
CustomColor1 または CustomColor2 の RGB 値を設定するには、次の手順を実行します。
 - a. [変更] をクリックします。
 - b. カラーキャンバスから色を選択します。
 - c. [選択] をクリックします。
7. [OK] をクリックします。
8. 変更を適用するには、.ini または .exe フォーマットで設定をエクスポートします。[\[BIOS 設定のエクスポート \]](#) を参照してください。

Advanced System Management

Advanced System Management (ASM) は、Dell Precision R7610、T5810、T7810、T7910 およびそれ以降のワークステーションでサポートされている機能です。電圧、温度、電流、冷却装置、電源プローブについての情報が表示されます。電圧、電流、冷却、温度プローブの非重要上限しきい値も設定できます。この機能を搭載したシステム モデルの詳細については、サポート チームにお問い合わせください。

非重要しきい値の設定

メモ: 重要および非重要上限しきい値は、電圧、電流、冷却、温度プローブのみに設定できます。

プローブに非重要しきい値を設定するには、次の手順を実行します。

1. 必要なオプションをクリックします。
 - [マルチプラットフォームパッケージの作成]
 - [ローカルシステムパッケージの作成]
 - [保存されたパッケージを開く]

メモ: 保存したパッケージを開くには、[保存されたパッケージを開く] をクリックし、ファイルの場所を参照して [開く] をクリックします。
2. [編集] をクリック、またはオプションをダブルクリックします。
3. [advsm] オプション行で、[設定する値] 列の [表示 / 変更] をクリックします。
[Advanced System Management] 画面が表示されます。

メモ:

 - [ローカルシステムパッケージの作成] の非重要しきい値を設定する場合、[説明]、[タイプ]、[インデックス]、[場所]、[最小]、[最大]、[重要上限しきい値]、[非重要上限しきい値]、[削除] 列が表示されます。システムに使用可能なプローブの詳細が表示されます。表示されたプローブの [タイプ] フィールドと [インデックス] フィールドは編集できません。

- [マルチプラットフォームシステムパッケージの作成] の非重要しきい値を設定する場合、[タイプ] [インデックス] [非重要上限しきい値] [削除] 列が表示されます。システムにはプローブの値は表示されません。選択した各プローブの [インデックス] フィールドと [非重要上限しきい値] フィールドに、値を設定する必要があります。[インデックス] の値は、システム上で実行されているプローブのインスタンスの数に応じて設定します。[非重要上限しきい値] は、重要上限しきい値の範囲内である必要があります。

4. 新しいプローブに非重要しきい値を設定するには、[プローブの追加] をクリックし、必要なフィールドに値を入力します。
5. リストされたプローブに非重要しきい値を設定するには、それぞれの列に値を入力します。
6. プローブを削除するには、[X] マークをクリックします。
7. [OK] をクリックします。
8. 変更を適用するには、.ini または .exe フォーマットで設定をエクスポートします。「[BIOS 設定のエクスポート](#)」を参照してください。

BIOS オプション検証

[検証] オプションを使用して、ホストシステムの設定に対して BIOS パッケージのオプションを検証することができます。マルチプラットフォーム パッケージ、ローカル システム パッケージ、または保存されたパッケージの設定を検証することができます。[bootorder]、[syspwd]、および [setuppwd] オプションを除くすべてのオプションを検証できます。

マルチプラットフォームパッケージまたは保存されたパッケージの検証

マルチプラットフォームまたは保存されたパッケージのオプションを検証するには、次の手順を実行します。

[マルチプラットフォームパッケージの作成] 画面で [検証] をクリックします。

- ホストシステムでオプションと設定済みの値がサポートされている場合、緑色のチェックマークが [ステータス] 列に表示されます。
- ホストシステムでオプションがサポートされていても設定済みの値がサポートされていない場合は、赤色の [X] マークが [ステータス] 列に表示されます。
- サポートされていないオプションはすべてグレー表示になり、[ステータス] 列は空欄のままになります。
- ホストシステムでサポートされているオプションはすべてハイライト表示され、[ステータス] 列は [設定する値] フィールドが [未指定] となった状態で空欄のままとなります。

ローカルシステムパッケージの検証

ローカルシステムパッケージのオプションを検証するには、次の手順を実行します。

[ローカルシステムパッケージの作成] 画面で [検証] をクリックします。

- ホストシステムに該当するすべてのオプションがハイライト表示され、緑色のチェックマークが [ステータス] 列に表示されます。
- サポートされていないオプションはすべてグレー表示になり、[ステータス] 列は空欄のままになります。

メモ: ホストシステム上でサポートされるオプションは、ローカルシステムパッケージの検証後も設定可能です。

BIOS 設定のエクスポート

カスタマイズ済みの設定をエクスポートして、同じ設定をターゲットのクライアントシステムに適用できます。サポート対象と非サポート対象の両方のオプションをエクスポートできます。任意の値を指定しないで、特定のオプション ([asset] および [propowntag]) をエクスポートできます。

オプションをエクスポートするには、次の手順を実行します。

そのオプションの [設定を適用する] チェックボックスを選択し、次のいずれかのフォーマットでエクスポートします。

- 自己完結型の実行可能ファイル - [EXPORT.EXE] を実行して、構成設定を SCE (EXE ファイル) としてエクスポートします。詳細については、「[セットアップ、システム、またはハードディスク ドライブ パスワード画面](#)」を参照してください。
- レポート - [レポート] をクリックして、読み取り専用の HTML ファイルとして設定をエクスポートします。
- 設定ファイル - [設定のエクスポート] をクリックして、CCTK または INI ファイルとして設定をエクスポートします。

メモ: ユーザー インターフェイスでオプションを表示して設定するには、CCTK ファイルをダブルクリックします。

- シェルスクリプト - シェルスクリプトは、SCE ファイルがエクスポートされた場所に生成され、SCE ファイルと同じ設定が含まれます。シェル スクリプトは、Linux オペレーティング システムを実行しているシステムを設定するために使用されます。

SCE (.EXE) ファイルのエクスポート

BIOS 設定をエクスポートするには、次の手順を実行します。

1. [EXPORT.EXE] オプションをクリックして、BIOS 設定を .exe ファイルとしてエクスポートします。
2. [セットアップ、システムまたはハードディスクドライブパスワード] 画面が表示され、パスワードを入力するよう求められます。
3. ターゲットシステムに設定されたパスワードのタイプに応じて、以下の表を参考にして入力するパスワードを決定します。

Settings you want to configure	Passwords set on the target system						
	Setup Password	System Password	Hard Disk Drive Password	Setup and System Passwords	Setup and Hard Disk Drive Passwords	System and Hard Disk Drive Passwords	System, Setup and Hard Disk Drive Passwords
BIOS Tokens/features	Setup Password	System Password	Not Required	Setup Password	Setup Password	System Password	Setup Password
Setup Password	Setup Password	System Password	Not Required	Setup Password	Setup Password	System Password	Setup Password
System Password	Setup Password	System Password	Not Required	Setup and System Passwords	Setup Password	System Password	Setup and System passwords
Hard Disk Drive Password	Setup Password	System Password	Hard Disk Drive Password	Setup Password	Setup and Hard Disk Drive Passwords	System and Hard Disk Drive Passwords	Setup and Hard Disk Drive Passwords

図 1. パスワード参照表

例 :

- システムでセットアップパスワードが設定されており、BIOS トークン / 機能を設定する場合は、セットアップパスワードを入力する必要があります。
 - システムでセットアップパスワードおよびシステムパスワードが設定されており、BIOS トークン / 機能を設定する場合は、セットアップパスワードを入力する必要があります。
 - システムでセットアップパスワードおよびシステムパスワードが設定されており、BIOS トークン / 機能の設定とともにシステムパスワードの変更を行う場合は、システムパスワードとセットアップパスワードの両方を入力する必要があります。
 - システムでセットアップ、システムおよびハードディスクドライブパスワードが設定されており、BIOS トークン / 機能の設定とともにハードディスクドライブパスワードの変更を行う場合は、セットアップパスワードとハードディスクドライブパスワードの両方を入力する必要があります。
4. 希望する設定を行うことができるようにするには、適切なパスワードを入力してください。
 - セットアップパスワードを入力するには、[セットアップパスワード] をクリックし、[下記のパスワード情報を使用する] オプションを選択してからセットアップパスワードを入力します。
 - システムパスワードを入力するには、[システムパスワード] をクリックし、[下記のパスワード情報を使用する] オプションを選択してからシステムパスワードを入力します。
 - ハードディスクドライブパスワードを入力するには、[ハードディスクドライブパスワード] をクリックし、[下記のパスワード情報を使用する] オプションを選択してからハードディスクドライブパスワードを入力します。
 5. ターゲットシステムにセットアップ、システム、またはハードディスクドライブパスワードがない場合は、[パスワードは不要] を選択します。
 6. 警告メッセージ [「この BIOS 設定をエクスポートすると、システム、セットアップ、HDD のパスワードはもはや安全ではありません。パスワードをクリアテキストで表示したまま続行する場合は、続行 を選択してください。パスワードを非表示にする場合は、マスク を選択してください」] が表示されます。パスワードを保護するには マスク をクリックします。それ以外の場合は、続行 をクリックします。
 7. [OK] をクリックします。

メモ: WMI-ACPI 非準拠のシステムでも、マルチシステムパッケージを使用して SCE を生成できます。

値設定なしでの設定のエクスポート

値への変更を指定せずに asset および propowntag をエクスポートするには、次の手順を実行します。

対応するオプションの [設定を適用する] チェックボックスを選択し、エクスポートします。

ターゲットシステム設定

ターゲットクライアントシステムを設定するために、エクスポートされた INI、CCTK、SCE、およびシェルスクリプトファイルを適用することができます。

関連リンク：

- [INI または CCTK ファイルの適用](#)
- [Linux システムへのシェルスクリプトの適用](#)
- [SCE ファイルの適用](#)

INI または CCTK ファイルの適用

INI ファイルまたは CCTK ファイルの適用に対する前提条件は次のとおりです。

- システム管理者権限
- Dell Command | Configure クライアントシステムにインストールされた

INI ファイルまたは CCTK ファイルを適用するには、`cctk -i <filename>.` を実行します。

- ① **メモ:** Ubuntu Core オペレーティングシステムを実行しているシステムでは、`var/snap/dcc/current` にあるファイルをコピーして、`dcc.cctk -i /var/snap/dcc/current/<ファイル名>.ini` を実行します。

Linux へのシェルスクリプトの適用

1. Linux オペレーティングシステムを実行しているシステムにスクリプトをコピーします。
2. システムで `dos2unix` を実行します。
3. スクリプトを `sh <filename.sh>` として実行します。

SCE ファイルの適用

- ① **メモ:** これには管理者権限が必要です。

ターゲットシステムに SCE を適用するには、次の手順を実行します。

SCE をダブルクリックする、またはコマンドプロンプトから SCE があるディレクトリを参照し、SCE ファイルの名前を入力します。

例：`C:\Users\SystemName\Documents>"<filename>".`

- ① **メモ:** Windows PE システムでは SCE を実行できません。Windows PE オペレーティングシステムを実行しているターゲットシステムで SCE を適用する場合の詳細については、「[トラブルシューティング](#)」を参照してください。

- ① **メモ:** 生成された SCE ファイルは、WMI-ACPI 非準拠のシステムでは動作しません。

SCE 詳細

SCE を使用することができる一般的なシナリオのいくつかを次に説明します。

- ターゲットシステムで SCE を適用すると、ターゲットシステムの BIOS 設定に対してサイレントインストールが実行されます。インストールが完了すると、SCE は同じ場所に同じ名前でテキストファイルを生成します。テキストファイルには、適用済みのすべてのオプションおよび SCE ファイルの状態が含まれています。
 - ① **メモ:** 必要な場所にログファイルを生成するには、ログファイルの場所を指定します。例：`SCE.exe /l="<folder_path>\log.txt".`
- 読み取り専用の場所からターゲットシステムに SCE を適用する場合は、ログファイルの生成を阻止するための `/nolog` オプションを指定します。例：`SCE.exe /nolog.` `/nolog` オプションを指定すると、SCE を正常に実行して、SCE が読み取り専用の場所にあるためログファイルが作成されないことを通知します。
- `/nolog` を指定せずに読み取り専用の場所から SCE を実行すると、SCE の実行は失敗します。
- Windows PE で SCE を適用するには、`/e` オプションを使用して Windows オペレーティングシステムを実行しているシステムから SCE を抽出します。例：`SCE.exe/e=<folder_path_to extract SCE>.`

- ターゲットシステムにセットアップまたはシステムパスワードを設定しており、SCEのエクスポート中に[セットアップ、システム、またはハードディスクドライブパスワード]画面で同じパスワードを入力しなかった場合、SCEをダブルクリックしてターゲットシステムに適用することはできません。ただし、SCEをコマンドプロンプトから適用する際は、ターゲットシステムのセットアップまたはシステムパスワードを提供できます。

i **メモ:** セットアップパスワードの指定例 : C:\Windows\Command Configure\SCE>"<filename>" --valsetuppwd=<password string>

i **メモ:** システムパスワードの指定例 : C:\Windows\Command Configure\SCE>"<filename>" --valsyspwd=<password string>

関連リンク :

- [BIOS 設定のエクスポート](#)
- [値設定なしでの設定のエクスポート](#)

パッケージ履歴内のログ詳細

[パッケージ履歴] 画面では、BIOS 設定のエクスポートの詳細を表示することができます。[パッケージ履歴] には、エクスポートの時刻、日付、タイプ、ファイルをエクスポートする場所などの詳細が表示されます。

関連リンク :

- [ログファイルの表示](#)
- [ログ詳細の削除](#)

ログファイルの表示

Dell Command | Configure ページで、[パッケージ履歴] をクリックします。

ログ詳細の削除

[パッケージ履歴] ページで、[ログのクリア] をクリックします。

のフィードバックの提供 Dell Command | Configure

Dell Command | Configure GUI のリンクを使用して、Dell Command | Configure に関するフィードバックを提供することができます。

1. [ご意見をお聞かせください] リンクをクリックして、オンラインアンケートページを開きます。
2. フィードバックと満足度評価を入力してください。
3. [送信] をクリックして、Dell に提出します。

Dell Command | Configure 4.5 のトラブルシューティング事例

Dell Command | Configure を実行するとエラーメッセージが表示される

エラーメッセージ「Required BIOS interface not found or HAPI load error.」が表示される場合は、Hardware Application Programming Interface (HAPI) をアンインストールして再インストールします。

32 ビットおよび 64 ビット Windows 対応システムでの Dell Command | Configure の実行

システムのアーキテクチャに基づいて `cctk.exe` が実行されていることを確認します。32 ビット対応システムで Dell Command | Configure を実行している場合は、インストールディレクトリーの `x86` ディレクトリーを参照して、Dell Command | Configure コマンドを実行します。64 ビット対応システムで `cctk.exe` を実行している場合は、`x86_64` ディレクトリーを参照して、Dell Command | Configure コマンドを実行します。

64 ビット対応システムで 32 ビット対応システム用の Dell Command | Configure を実行すると、「HAPI Driver Load Error」というエラーメッセージが表示されます。

32 ビット対応システムで 64 ビット対応システム用の Dell Command | Configure を実行すると、「Not a valid Win32 application」というエラーメッセージが表示されます。

ユーザーアカウント制御が有効な Windows 7、Windows 8、Windows 8.1、Windows 10 での Dell Command | Configure の実行

ユーザーアカウント制御 (UAC) が有効化されている Windows 7 以降を実行しているシステムで Dell Command | Configure を実行するには、「Dell Command | Configure コマンドプロンプト」を右クリックして、「管理者として実行」を選択します。

①メモ: Windows 7、Windows 8、Windows 8.1 で UAC を有効にすると、管理者権限を持つユーザーはサイレントモードで Dell Command | Configure をインストール/アンインストールできなくなります。Dell Command | Configure をサイレントモードでインストールする前に、An 管理者権限があることを確認してください。

Linux での Dell Command | Configure の実行

Linux オペレーティングシステムを実行しているシステムに Dell Command | Configure をインストールする場合は、`modprobe dcdbas` エントリーを `/etc/rc.modules` ファイルに追加します。Dell Command | Configure のアンインストール後、このエントリーは削除されません。

TPM のアクティブ化

Trusted Platform Module (TPM) は、認証、インテグリティメトリクスおよびレポート、さらにセキュアキー階層を提供する業界標準の暗号化モジュールです。クライアントシステムは、TPM を使用してシステムの状態が 2 回の起動サイクルで変更されたかどうかを確認します。

TPM をアクティブにする、および TPM のアクティブ化をチェックするには、次の手順を実行します。

1. BIOS パスワードが設定されていない場合は、それをシステムに設定します。次のように入力します。

```
cctk --setuppwd=<new-BIOS-password>
```

2. 有効でない場合は、TPM を有効にします。次のコマンドを入力します。

```
cctk --tpm=on
```

3. システムを再起動します。
4. TPM をアクティブにするには、次のコマンドを入力します。

```
cctk --tpmactivation=activate --valsetuppwd=<Setuppwd>
```

5. オペレーティングシステムがロードされるまで、システムを中断せずに再起動します。
6. TPM のステータスをチェックするには、次のように入力します。

```
cctk --tpmactivation
```

ステータスがアクティブ化として表示されます。

Windows Preinstallation Environment(Windows PE)での SCE の実行が失敗する

ユーザー インターフェイスの Export オプションを使用して生成された SCE は、Windows PE では実行できません。SCE を使用して BIOS を設定するには、Windows PE オペレーティングシステムを実行しているターゲットシステムで：

1. Windows オペレーティングシステムを実行しているシステムで、次のコマンドを使用して SCE の内容をフォルダに抽出します。

```
Sce.exe /e=<folder_path_to_extract_contents>
```

① | メモ: コマンドの使用方法の詳細については、/h スイッチを使用します。

2. 抽出された内容を、システム上のアクセス可能な場所にコピーします。
3. 抽出された内容の場所から、次のコマンドを実行して設定を適用します。

```
applyconfig.bat /logfile <A valid and existing folder with write permission>\<A valid file name>
```

例 : applyconfig.bat /logfile C:\log.txt

セットアップまたはシステム パスワードが設定されているシステムに設定を適用するには、次のコマンドを実行します。
applyconfig.bat /logfile <A valid and existing folder with write permission>\<A valid file name> "--valsetuppwd= <setup password>"

例 1 : applyconfig.bat /logfile C:\log.txt "--valsetuppwd=password"

例 2 : applyconfig.bat /logfile C:\log.txt "--valsypwd=password"

トピック :

- [Dell へのお問い合わせ](#)

Dell へのお問い合わせ

メモ: インターネットにアクセスできない場合には、注文書、配送伝票、請求書、または Dell 製品カタログにある、お問い合わせ情報をご利用ください。

Dell では、オンラインおよび電話によるサポートとサービスオプションをいくつかご用意しています。これらのサービスは国および製品によって異なり、お住まいの地域では一部のサービスがご利用いただけない場合があります。Dell のセールス、テクニカルサポート、またはカスタマー サービスへは、次の手順でお問い合わせいただけます。

1. [Dell.com/support] にアクセスしてください。
2. サポートカテゴリを選択します。
3. ページの下部にある [国 / 地域の選択] ドロップダウンリストで、お住まいの国または地域を確認します。
4. 目的のサービスまたはサポートを選択します。